

— 国芳 対 芳年 — 源義経を描く—

「鎌倉殿」と武将たち
— 浮世絵版画・浅井コレクションの名品
歌川国芳から月岡芳年まで
2022.10.29[土]—12.18[日]

テレビドラマを通じて関心の高まる「鎌倉殿」の時代。とりわけ源義経は、だれもが知る歴史上のヒーローです。

浮世絵版画には、義経を描いたものが数多く見られますが、特筆すべきは、武者絵を得意とした浮世絵師、歌川国芳(1797-1861)と弟子月岡芳年(1839-1892)の作です。

まずは牛若丸競べから。国芳は「和漢準源氏 よこ笛 牛若丸」で、牛若丸と弁慶の出会いを描きました。横笛を吹く涼しい面差しの牛若丸と、背後から近づきかみ顔の弁慶。対照的な表情や遠近の構図が、対決直前の緊張感を生み出

しています。「芳年武者無類 源牛若丸 熊坂長範」は決闘の真っ最中。芳年は、宙を舞い太刀を振り下ろす牛若丸と、薙刀の柄で懸命に受ける長範とを交差させ、気迫溢れる場面を画面一杯に描いています。

次は、三枚続きを生かした構図です。芳年は、源平の合戦のひとつ「矢嶋大合戦之圖」において、大画面を朱塗りの回廊で斜めに分断しました。矢が飛び交い、几帳や紙が風に舞い、狼狽する建礼門院と、屋敷に踏み込む義経。不安定な構図が戦いの混乱を際立たせています。

国芳作「堀河夜討の圖」で、義経は画面の右上に座し、左下には



歌川国芳《和漢準源氏 よこ笛 牛若丸》



月岡芳年《芳年武者無類 源牛若丸・熊坂長範》明治16年(1883)

頼朝から誅殺を密命された土佐坊昌俊が。国芳は、元は味方であった二人を対角線上に配して、緊迫の対峙と心の距離を暗示しました。義経の波乱の生涯は長く語り継がれてきましたが、とくに江戸時代、

浮世絵に繰り返し描かれることで、より多くの人々に親しまれるようになりました。

このたびは大阪の古書店主・浅井勇助が蒐集した浮世絵版画のコレクションから、「鎌倉殿」の時代に

ちなんだ約100点を厳選します。国芳や芳年の描く、躍動的で臨場感に満ちた義経の雄姿にご注目ください。ゆかりの伊豆の地で、伝説の名場面が鮮やかに蘇ります。

(学芸グループ長 河内えり子)



歌川国芳《堀河夜討の圖》嘉永5年(1852)



月岡芳年《矢嶋大合戦之圖》明治14年(1881)

ミュージアムショップ

「鎌倉殿」と武将たち 展に合わせたグッズのご紹介です。

福井朝日堂

武将しおり 6枚入り
385円(税込)



侍カード 全6種
各880円(税込)



ニッケン刃物

掛け台付き日本刀はさみ
各2,970円(税込)
日本刀モチーフの反りや模様
特徴的なはさみ。
インテリアとして飾れる掛け台付き。



戦国魂

マスキングテープ 880円(税込)
武将の家紋が散りばめられた家紋柄と、
兵たちが描かれた合戦図屏風の2個セット。



佐野美術館オリジナル

刺繍ソックス 全6種
各1,430円(税込)
「鶴丸透羅」「能面 小面」など、
佐野美術館の所蔵作品が
刺繍されたソックス。



今年
新登場した
アイテム
です!

※本展会期終了後の販売は未定です